

2020 年度 第 3 回講演会 記録

日 時	2020 年 11 月 14 日 (土) 13 : 00~16 : 00
会 場	此花会館・梅香殿からオンライン中継
講 師	ロハス・ビジネス・アライアンス共同代表 大和田 順子先生
演 題	SDGs と世界農業遺産
備 考	受講者 154 名 (会場受講 119 名、オンライン受講 35 名) 記録 飯田正恒

はじめに

【田中 克 先生】

今年から森の暮らしをしています。そろそろ冬越しの準備をする時期になりました。数日前、黒姫山のふもとにも初雪が降りました。紅葉、初雪、朝日が見事に調和し、自然の織りなす美これぞ自然だ！と感激し、改めて森の重要性を学び直しています。

本日お招きした大和田先生は、2011 年の東日本大震災直後に開催された第 23 回「森は海の恋人植樹祭」に駆け付けご挨拶をいただきました。その後、世界農業遺産委員として宮崎県椎葉村の焼畑農業の視察などに度々出向かれ、現地での火入れの際にお会いをしたご縁からご講演をお願いしました。

先生が代表をお務めの「ロハス・ビジネス・アライアンス」の「ロハス」は、1990 年後半にアメリカの西部コロラド州ボルダー周辺で創出された理念で、英語の Life styles of health and sustainability の頭文字をとり、「健康で持続可能な、及びこれを重視する生活様式」を意味し、「健康と地球環境」意識の高いライフスタイルを目指しています。アメリカ生れの思想を日本にいち早く取り入れ、活動を始められました。SDGs に関わる活動をはじめ、椎葉村の焼畑にも参加されるなど、広範囲にアクティブな活動を展開されており、興味深いお話しを楽しみにしております。

【大和田 順子 先生】

はじめに自己紹介をさせていただきます。大学卒業後、東急百貨店と東急総合研究所で 10 数年勤務する中で、百貨店が扱う商品と環境問題との関わりを「百貨店人のためのエコロジーハンドブック」としてまとめたことがあります。

現在は「フェアトレード」や「SDGs」など認知も高まっていますが、30 数年前にはこのような指針がなく、消費生活アドバイザーの資格を持つ女性社員数人が自主的に作成し提案したところ、会社から評価され、全社員 5 千人に印刷・配布されました。経験から、「エコライフ」がいつも私の意識にあるようになりました。



その後イオングループに移り、英国の化粧品会社「ザ・ボディーショップ」にて社会変革キャンペーンを担当、次にベンチャー企業の経営コンサルティング会社に移り、ここでアメリカの新しいライフスタイル「ロハス」のことを知りました。ロハスの健康と地球環境を結びつけた理念は、日本で受け入れられる可能性が大きいと直感し、アメリカのコロラド州で開かれたロハスの会議に出席するなどその理念や実際に学んで帰国し、2002 年 9 月に日本ではじめてロハスを紹介する記事を日経新聞に寄稿しました。2006 年に（一社）ロハス・ビジネス・アライアンスを設立し、本の出版（注）を行ない、定期的にセミナーを開催するなど普及活動をしてきました。

2009 年からは、全国各地の「有機農業や生物多様性」、再生可能エネルギーを活かした“持続可能な地域づくり”などの活動取材し、『アグリ・コミュニティビジネス』という書籍を出版しました。また 2014 年から 2020 年 3 月まで、農林水産省が主宰する世界農業遺産等専門家会議の委員を務めておりました。

地域づくりをサポートし見聞を広めているうちに、自分の実践活動を分析し理論化するためには、もう一度大学で学び直す必要を感じ、6年半前に宮城県立大学大学院に入学しました。福島復興支援活動の一環としてのオーガニックコットンプロジェクトや、宮城県大崎市で渡り鳥の保護活動等の軌跡を「事業構想学」として学位論文にまとめ、博士号をいただいて9月30日に卒業しました。(会場から拍手) ありがとうございます。「事業構想学」は英語ではプロジェクトデザインといますが、地域の課題を解決することを計画し、分析し、理論化し、モデル化し他の地域でも展開できる体系を整える学問です。

昨年からは新型コロナウイルス感染拡大に伴い、人が集まり行動することが難しいですが、ZOOMを利用したオンライン教育に挑戦しております。以上のような私の人生経験から得た、私達のように都市に暮らす人間と農山村との関わり方についてのお話しをお聞きください。

(注)本の出版 「日本をロハスに変える30の方法」(2006年講談社)、ロハスビジネス(2008年朝日新書)

「アグリ・コミュニティビジネス」(2011年学芸出版社)

【講演要旨】

1. SDGsの視点から考える持続可能な社会

(1) SDGsへの社会の取り組み(レジュメ p.1)

最近、会社の営業担当者がSDGsのバッジを胸元につけているのをよく目にします。例えば大和証券の場合、顧客に対して投資を勧めるまえに、まずSDGsの話題から入る戦術にしているようです。近年はESGという、環境と社会とガバナンスに配慮した投資が大きな注目を集めるようになってきました。

そして2015年、国連は世界の課題を解決する「持続可能な開発目標」(SDGs)として17の目標を採択しました。日本はSDGsに積極的で、政府は本部を作るとともに各省庁は取り組み内容を農業白書、環境白書で報告しています。企業も環境報告書(サステナビリティレポート)で実施状況を報告することが多くみられるようになり、学校も小学校から大学までカリキュラムを組み、教育するようになりました。

発展途上国への支援の流れと環境の流れの2つが合流してSDGsとなり、2015年にスタートしました。ロゴマークをレジュメ p.1に掲載していますので参照下さい。ロゴに付いた説明は短いので分かりにくいのですが、詳しい説明をp.1に併記しています。今日は目標の15番「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止、回復及び生物多様性の損失を阻止する」についてお話しします。

(2) 持続可能な開発・考え方の変遷

- ① 1962年、レイチェル・カーソンは著書「沈黙の春」でDDTを始めとする農薬などの化学物質の危険性を訴えました。
- ② 1972年ローマクラブが資源と地球の有限性に着目し「人口増加や環境汚染などの現在の傾向が続けば、100年以内に地球上の成長は限界に達する」と警鐘を鳴らしました。
- ③ 1980年代によく“持続可能な”という概念が誕生し、1990年代にこの概念が普及しました。
- ④ 2001年に途上国向けにまとめられた国際目標MDGs(ミレニアム開発目標)と持続可能な開発の考えかたを統合しSDGsとして2015年にスタートしました。

(3) 持続可能な開発

「持続可能な開発」は、次のように定義されています。

「将来の世代がその欲求（ニーズ）を充足する能力を損なわずに、現世代の欲求（ニーズ）を充足する開発のこと」で **持続可能な開発＝将来世代との約束**

ロハスの基本概念は「健康と環境」と言いましたが、環境はサステナビリティです。この言葉を最近よく聞くとおもいますが、私は3つの思いやりと考えてはどうかと思います。

一つめは「発展途上国の人びとへの思いやり」です。普段の生活で途上国の人びとと接することはありませんが、私達が使う衣類や食料はどこからきたか、だれがどのようにつくっているか、このことに思いを馳せましょう。

二つめは将来世代に対する思いやりです。そして3つめはもの言わぬ生き物への思いやりも大切です。サステナビリティとはこの三つを指しているというのが私の持論です。

人類の課題として克服しなければならない課題が3つあると考えています。

- ・環境破壊：生物多様性、水源、森林、獣害。
- ・社会破壊：絆が薄れ、つながりが失われる。
- ・未来破壊：気候変動による異常気象の常態化。

私達の時代は何とかなっても、子、孫の世代はどうなるのか、日本政府は2050年までにカーボンニュートラルにすることを政策にすることを発表し、ほっとしています。世界で共通の目標を持ち、課題の解決に取り組もうとしているのがSDGsです。



(4) SDGs ウェディングケーキ

上の図はストックホルム大学のレジリエンスセンターが開発したもので、SDGs17の目標を3層に分けて描いています。

下層：BIOSPHERE＝バイオスフェア＝自然資本といわれていますが、これらが土台になり、次に社会があり、経済があるという関係を表わしています。

目標：6.安全な水とトイレ、15.陸の生態系、14 海の生態系、13 気候変動、

中層：SOCIETY＝社会

目標：1.貧困をなくす、11.住み続けられる町づくり、16.平和と公正、7.エネルギー、3.健康と福祉、4.教育、5.ジェンダー平等、2.飢餓をゼロに

上層：ECONOMY＝経済

目標：8.働き甲斐／経済成長、9.産業と技術革新、10.人や国の不平等をなくす、12.つくる責任／使う責任、17.パートナーシップで目標達成

この目標を達成するための 169 のターゲットがあります。そして、自分の地域、国にとって固有の社会課題を 170 番目のターゲット、あるいは 18 番目の目標を自分で設定してみてはどうかと考えています。

(5) 持続可能な開発の 3 つの側面

国連の広報センターは SDGs についてさまざまな資料を提供しています。その一つに「持続可能な開発の 3 つの側面」というのがあります。重要な考え方として、持続可能な開発を達成するためには、経済成長、社会的包摂（注）、環境保護という 3 つの主要素を調和させることが大切と言っています。

（注）包摂とは、「皆一緒に」の意。

SDGs の 5 つの特徴

普遍性	先進国含め、すべての国が行動
包摂性	人間の安全保障の理念を反映し、「誰一人取り残さない」
参画性	全てのステークホルダーが役割りを
統合性	社会・経済・環境に統合的に取り組む
透明性	定期的にフォローアップ

2. 暮らしのなかで SDGs を実践する。

私達の暮らしと SDGs はどのように関係するのでしょうか。調べてみると、環境省が「SDGs を実践するための暮らしのヒント」を分かりやすく 33 項目にわたり HP で紹介しています。その一例を紹介します。

ご近所食材

買い物をするときに、どんな基準で食材を選ばいいのか迷ってしまいます。体により良い食材を選びたいけれど、そのような食材は高かったり、近くで手に入らないこともあり、ハードルが高く感じてしまいます。また、特売品や輸入品を利用する場合にも安全な食材なのかどうか不安になってしまうこともあります。そこで、できるだけ近くで採れたものから選びます。町内／市内／県内／国内と、食材の産地の幅をだんだん広げていきます。八百屋さん、直売所など、安くて元気な食材が手に入る場所を家の近くで探してみるのもいいでしょう。遠くから運ばれてきた食材は、輸送するためにエネルギーをたくさん消費していたり、その間に腐ってしまわないように加工されている場合が多いので、近くの食材を選ぶことは自分の身体と自然環境への負担を減らすことにも繋がります

その他にも、「まるごと頂きます」、「お出かけのお供（エコバッグ使用の勧め）」とか「じっくり選ぼう（衝動買いを止めよう）」、「ゴミの減量」、「ふるさと造り」など、暮らしと SDGs を考えるヒントが多く掲載されています。

国連が定めた目標は一市民には遠大なことのように見えますが、自分の暮らしが日本の様々な社会に、さらに世界につながっていることを認識することが、暮らしから見た SDGs であろうと思っています。毎日の暮らしの中で森里川海の恵みを意識して、商品選びやお休みの日の過ごし方を変えるだけでも、森里川海を元気にすることに繋がります。自分のライフスタイルにあったヒントを選んでみてください。

環境省の HP 「暮らしのなかで SDGs を実践する」の閲覧をお勧めします。

URL : <https://www.env.go.jp/nature/morisatokawaumi/pattenlanguage.html>

3. 今、日本の農山村で起きていること

① 国土の 9 割の面積(農山村)を 2 割の人口で支えている

私は 10 年間農山村に通い、その現状を見つめてきました。そこから思うことは、国土面積の約 9 割

は農山村で、それを国民の 2 割の人口が支えている。都市面積約 1 割に 8 割の人口が密集して暮らす極端な偏りです。

農業地域類型区分	面積（万 ha）	人口（万人）	農業集落数
都市的地域	441（11.7%）	10,143（79.8%）	29,782（21.5%）
平地農業地域	537（14.2%）	1,147（90.0%）	34,715（25.1%）
中間農業地域	1,202（31.8%）	1,069（8.4%）	42,137（34.1%）
山間農業地域	1,539（40.7%）	351（2.8%）	26,622（19.3%）
全 国	3,780（100.0%）	12,709（100.0%）	138,256（100.0%）

出典：平成 30 年度「食料・農業・農村の動向」第 3 章、第 1 節、農林水産省

② 人口減少

人口減少が続く、過疎高齢化して農林漁業などの担い手が次第に少なくなっています。

③ 低い食料自給率

昭和 40 年（1965）カロリーベースで 73%あったのが、平成 29 年（2017）38%に低下し、62%は輸入に頼る現状です。

この危機をどうすれば回避できるか模索しているとき、出会ったのが「世界農業遺産」でした。

4. 世界農業遺産

（1）世界農業遺産とは

- ① 国連食糧農業機関（FAO）が 2002 年に開始したプロジェクトで、Globally Important Agricultural Heritage Systems 略称 G I A H S といいます。
- ② 当初は主に途上国が対象でしたが、現在はヨーロッパなども加わり、世界で 22 ヶ国 62 地域、日本では 11 地域が認定されています。（令和 2 年 6 月現在）
- ③ FAO は世界から飢餓をなくすために大規模化や効率化で食料増産を図る一方、生産規模は小さくても数千年、数百年と継承されてきたその土地固有の技術や風土に根付いた農林漁業があります。これは全人類の財産であり、認定をしてしっかり守っていこう、そのための仕組みとして設けられた制度です。
- ④ 地域別にはアフリカ 6 か国 10 地域、アジア 7 か国 37 地域、中東 2 か国 4 地域、欧州 3 か国 7 地域、中南米 4 か国 4 地域です。認定地域は途上国が多いですが、中国と日本は国が政策としてこの制度を取り入れたので認定数が多く、欧州は 2017 年によく 3 か国認定地域ができました。（世界農業遺産を 1 光景ずつ Youtube で紹介。日本は静岡のワサビ田、長良川のアユが紹介された）

（2）世界農業遺産の特徴

G I A H S には 3 つの特徴があります。

- ① 家族農業を重視。世界の 9 割以上は家族経営で支えられている。
- ② 生きている遺産を動的保存する。⇒ 農業技術がしっかりと継承されるよう、行動計画をつくり、地域活性化に生かされるようにする。
- ③ 5 つの基準（持続可能な開発の 3 側面から構成されている）

GIAHS 認定の 5 つの基準	持続可能な開発の 3 側面
1. 食料及び生計の保証	経済
2. 農業生物多様性	環境
3. 地域の伝統的な知識システム	社会
4. 文化、価値観及び社会システム	社会
5. ランドスケープ及びシースケープ	環境

世界農業遺産認定申請者は上表で求められる基準への適合状況を克明に調査し、ストーリーを構成して申請書を作成し、審査を受けます。現時点で 11 地域が認定されました。

(3) 国内の世界農業遺産

認定年	地域名	認定理由
2011	新潟県佐渡市	トキと共生する佐渡の里山
2011	石川県能登	能登の里山里海
2013	静岡県	静岡の茶草場農法
2013	熊本県	阿蘇の草原の維持と持続的農業
2013	大分県国東半島・宇佐	クスギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環
2015	岐阜県・長良川	清流長良川の鮎～里川における人と鮎のつながり～
2015	和歌山県みなべ・田辺	みなべ・田辺の海システム
2015	宮崎県	高千穂郷・椎葉山の山間
2017	宮城県大崎地域	大崎耕土の巧みな水管理による水田農耕システム
2018	徳島県	にし阿波の傾斜地農耕システム
2018	静岡県	わさび栽培

【世界農業遺産の一例】

新潟県佐渡市 トキと共生する佐渡の里山

[朱鷺の舞う里を未来へ受け継ぎたい]

水田での江の設置（記録者注）、ふゆみずたんぼ、魚道の設置、ビオトープの設置など

（注）水田の江（え）とは水田の一部に通年湛水状態「江」（承水路）を創出し、水生生物の生息環境を確保する。次の機能を備える。

1. 山側からの湧水を集め、稲作の用水源として、また中干し時には明渠として活用できる。
2. 落水時や越冬期には、ドジョウの避難場所やヤマアカガエルなどの産卵場所となる。

トキの餌となるドジョウなど多様な生き物が生息できる水田環境を整えるために「生き物を育む農法」に取り組んでいる。

【コーヒーブレイク】

(4) 椎葉村焼畑農業

1) NHK COOL JAPAN

日本のさまざまな文化が外国人にカッコイイものとして受け入れられており、NHKの「COOL JAPAN」は、外国人の感性をフルに生かしてクールな日本の文化を発掘し、その魅力と秘密を探ろうという番組です。最近NHKがSDGsの具体的事例として椎葉村の焼畑農業を海外の若者に紹介し、彼等の意見を聞く番組を製作し放映しました。この録画を入手したので紹介します。（ビデオ映写）

【ビデオの内容】

椎葉勝さんが、人と自然、動物が共存する循環型農法は自然の理に最も適っており、世界農業遺産に選ばれた理由であることを、2020年の火入れの現地映像などを背景に説明し、そのあとで司会の鴻上尚史氏（作家）が出演者（海外の若者）に質問し彼らの感想や意見を訊きました。

COOL JAPAN 出演者（外国の若者）への質問と回答**Q1：焼畑のイメージは？**

- ・焼畑は二酸化炭素を出し地球温暖化につながる。
- ・山火事の危険がある。アジアでは隣国の大気汚染の原因になっている。
- ・ブラジルでは禁止されている。ビジネスとして拡大しようとすればどこかで制御不能になる。
- ・椎葉さんの焼畑は小規模でバランスが取れている。
- ・ブラジルの焼畑は椎葉さんから学ぶべきことが多くある。

Q2：森が再生するまで 25 年待つことをどう思うか？

- ・時間がかかりすぎ効率的とは思えない。
- ・私は素晴らしいと思う。森の再生のために焼く場所を変えている。私の祖先も土地を守ため移動しながら生活していたわ。
- ・ビジネスではなく地域のためだから 25 年待てるんだよ。
- ・大規模に焼いて収量を求めるといろんな問題がおきるんだ。

Q3：動物のためにクリを植えることはどう思う？

- ・その考えにはおどろいたわ。自然界の食物連鎖にとってすごくいいことだと思う。
- ・動物を守だけでなく肉を食べられ、ギブ&テイクの関係ができています。ただ動物を守というキレイごとだけでないんだ。持ちつ持たれつの関係がいいよね。
- ・カナダでは人の出したごみ目あてにクマがでてくるので、ゴミ出しの規制をするが、山にクマのエサになる木を植えることはしない。カナダでも動物の居場所は問題になっている。
- ・オーストラリアには耕作放棄された草地が多く、カンガルーが繁殖しすぎて害獣として扱われてしまう。焼畑で作った草地がカンガルーを呼んでいる。すごく矛盾がある。

Q4：動物（人間）自然が共存する椎葉村の暮らしはクールか？

- ・全員がクールと回答
- ・住もうとは思わない、自然が近い暮らしはカナダでは普通なもの。だがこれを見て故郷を思い出した。仕事があれば暮らしてもいいかな。短期でもいいから行って見て、東京に帰ってくる。皆と知識を共有するだけでも環境を守ることになるよ。
- ・行くのであればどっぷり漬かりたい。もし椎葉さんが仕事をくれるのであれば喜んで行くさ。
- ・私はいつも自給自足の生活に慣れているの。ずっと椎葉村に暮らすのは現実的ではないけれど 1 年の内 1～2 カ月田舎暮らしをしてみたいわ。

まとめ：東京大学名誉教授 小林康夫先生

若い人たちが興味をもって椎葉村に行っているということは、我々が思いださくてはいけない何かがあるということで、それは循環していく時間だということです。おうおうにして時間は循環しているということを忘れてしまっ、一方的に儲けることだけ考えるのだけれど、そうではなくて、長いスパンで循環させていきながら、ダイナミックなバランスをどうやってとっていくか。このことを皆が感じ始めているのではないか。

2) 椎葉村の焼畑農業の概要**① 焼畑のサイクル 約 30 年**

- ・1 年目：伐採と火入れ
- ・穀物輪作 1 年目 ソバ 2 年目 ヒエ 3 年目 アズキ 4 年目 ダイズ
- ・5 年目以降 30 年まで 森の回復期

② 私が椎葉村に学んだこと

- ・山の神様、火の神様、水の神様と共にある暮らしが今でも存在することを知ったこと。
- ・「のさらん福は願いもうさん」

2020 年はそばの収穫を目前にして台風禍に会い、さらに珍しくイノシシの被害に会い、収穫がほとんどなかったとのことでした。しかし、「恵みは与えられるもので、与えられる年もあればそうでない年もある。永年この繰り返しでしたので、今年は仕方ないよ、来年は恵みがあるよ。」と自然と寄り添った生き方を実感しました。

- ・「かちやーり（かてーり）の精神」

農作業を互いに助け合う相互扶助の精神を表わすことばで、椎葉村や隣村の諸塚村に健在であり、少子高齢化、過疎化など農山村を取り巻くきびしい現実に対し、村人が団結して村を守っていく気概を強く感じました。

日本に 11 地域ある世界農業遺産はそれぞれに学びの場として意義深いものがあると思うので、機会をつくり椎葉村を再訪されてはいかがでしょうか。

(5) 滋賀県の琵琶湖システム（世界農業遺産登録への道）

琵琶湖を世界農業遺産に認定してもらう取り組みを進めています。審査をクリアーできる内容を十分に整えていると思っていますが、コロナのために F A O が任命した G I H A S 審査員の来日が遅れており、待機状態です。G I H A S 認定を目指して滋賀県が製作したビデオをご覧ください。（ビデオ映写）

【ビデオの内容】

「琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業を次世代へ ～世界農業遺産を目指して～」

400 万年まえに誕生した母なる湖「琵琶湖」。長い歴史の中で近江の人びとの暮らしは豊かな自然の恵みを利用し、自然と調和した生活、農林水産業を営んできました。その中で琵琶湖と共に生きるという思想を根付かせ、琵琶湖を大切にする心を受け継いでいます。

① 水を大切にする

人びとは水を大切にして汚れたものは決して流さない生活は、針江のかばたに見られるように今も続けられています。環境こだわり農業では農薬や化学肥料の使用量を 5 割以下に減らし、琵琶湖、周辺環境負荷減らして栽培しています。過去から現代に水を大切にする心が受けつがれています。

② 支え合う

山々からの貴重な水や水辺の資源、あらゆる自然の恵みを人びとは伝え会い、守ってきました。五穀豊穰祈願の「虫おくり」、「オコナイ」などの数ある祭礼は私達が受けつぐ心の一つです。ヨシ狩りや森の保全活動なども、人々の支え合いが環境を守る活動に繋がっています。

③ 生き物を大切にする

水源や雑木林など人の手によってつくりだされた里山の環境は、多くの生き物を育み、生物多様性の宝庫です。ビワマス遡上プロジェクト、魚のゆりかご水田プロジェクトなど、生き物と共生する取り組みが各地で賑わいをみせ、生き物を大切にする心を育んでいます。

④ 楽しむ

人々は農林水産業の営みに知恵を出し、工夫を重ね、そして楽しむことに変えてきました。昔ながらの「おかずとり」もその一つです。伝統野菜の四季折々の恵み、鮒ずしなどの慣れ寿司文化を受け継ぐ私達はこの地での暮らしを楽しんでいます。

営みの中で受け継がれてきた、「琵琶湖と共に生きるという思い」は、自然と調和した農林水産業の原動力であり、滋賀が世界に誇るものです。琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業、滋賀ならではの琵琶湖から水田に遡上するニゴロブナを育む魚のゆりかご水田や伝統的な琵琶湖漁業、ふなずしなどの食文化、こうした象徴的取り組みを柱に日本一の環境こだわり農業や農業用水の循環利用、森林の保全活動など琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業をストーリーにまとめ世界にアピールしていきます。

そして、環境のこと、生き物のこと、未来のこと考えながら琵琶湖と共生してきた農林水産業を次世代に引き継いでいきます。この思いを世界農業遺産とともに。

滋賀県は減農薬、減化学肥料の取り組みを「環境こだわり農業」として、認証制度を 2001 年（平成 13）から全国に先駆けて開始、栽培面積は約 400ha から 2016 年（平成 28）には約 15,600ha になり、環境こだわり米の作付け面積割合は 45%を占めるまでになりました。

魚のゆりかご水田プロジェクトも 2,001 年から始め 20 年になります。水田は古来、米作りの場だけでなく魚には絶好の産卵・繁殖の場でした。琵琶湖から遡上してきた魚が、近年の圃場整備により水路から田んぼに入りにくくなったのを人が少し手助けする、プロジェクトです。私も最近このゆりかご水田を見学に行き、多くの種類の魚が田んぼを目指して遡上しているのを目のあたりにしました。琵琶湖システムは世界農業遺産にふさわしい内容でありぜひ認証されることを心から願っています

1) 世界農業遺産申請の名称及び特徴

名 称：日本農業遺産「森・里・湖（うみ）に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム」。

特 徴：水田営農との深い関わりの中で発展してきた伝統的な琵琶湖漁業がその中心。里湖とも呼ばれる循環型システムで、千年の歴史を有するエリ漁や独特の文化が継承されている。

2) 地域活性化を目指す方策

「魚のゆりかご水田米」ブランド化、「魚のゆりかご水田米」で日本酒、お菓子の商品化、グリーンツーリズム（田植え・稲刈り体験、農家民宿、教育旅行の受け入れ等）多様な主体の参画（オーナー水田制、大学や企業も魚道づくりに参加、生き物観察会など）地域の絆、「自信」と「誇り」の継承（昔ながらのオカズトリを現代に受け継ぐ、鮒ずしの漬け込み体験、鮒ずしを食べる会、下新川神社のすし切り神事など）、「世界農業遺産」認定を目指すことにより、さらに活動の輪を広げ“滋賀”から“世界”へ飛躍を目指しています。

3) 取り組みの効果『五方によし』

近江商人の三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）を越えて「五方よし」と名付け、世界農業遺産認定の効果を 5 つ挙げているので、紹介とともに、それぞれを SDGs と関連付けました。

① 生き物によし

魚道の設置により、田んぼを湖魚の産卵、育成の場として再生できる。⇒SDGs15（陸の生態系）

② 琵琶湖によし

田んぼの濁水が琵琶湖に流出することを抑制できる。⇒SDGs15&6（水の管理）

③ 子どもによし

田んぼに魚がいることで田んぼや米作りに関心をもつようになる。⇒SDGs4（質の高い教育）

④ 地域によし

魚道づくりや生き物観察会で多くのひとが地域を訪れるようになり、人と人の交流が生まれる。

⇒ SDGs11（町造り）&17（パートナーシップ）

⑤ 農家によし

「魚のゆりかご水田米」のブランド化を目指します。⇒ SDGs2（食料の安定確保）

私はさらに 6 番目、7 番目も加えたいと思う。

⑤ 消費者によし

健康や環境に配慮した農産物を生産し、私たちの健康が保たれる。⇒ SDGs12（作る責任）

⑦ 地球によし

琵琶湖の漁業は内水面漁業といい、途上国で重視されています。⇒SDGs17（パートナーシップ）

以上のように滋賀県が取り組む琵琶湖システムは、SDGs と密接に関連していることが分かります。皆さんは地球環境について多くのことを学んでおられますが、SDGs の観点でみるとどれに該当するか考えてみると、新たな学びの機会になると思いますのでぜひお勧めしたいと思います。

5. 世界農業遺産と SDGs（レジュメ p.3）

（1）認定 11 地域へのアンケート調査

農山村が元気になるにはどうすべきか、SDGs との関係はどうか、目標達成にどのように貢献できるか、等の検討をする目的で、2019 年夏日本の世界農業遺産 11 地域を対象に SDGs への取り組みをアンケート調査しました。その結果

- ① 2015 年に世界農業遺産に認定された長良川、みなべ・田辺、高千穂郷・椎葉山が他の地域より SDGs への取り組みが多い。この理由は、SDGs が国連で採択された年であり、世界農業遺産認定時、国連から SDGs への取り組みを強く要請された背景があり、幅広い取り組みを意識的に行ったと思われます。
- ② 岐阜県は「アクションプラン」という行動計画を 5 年に一度作り直しますが、このとき SDGs の 169 のターゲットと照らし合わせて計画の見直しをしていることも要因と思います。
- ③ 認定全地域が取り組むのは「2・持続可能な農業」と「15・陸の生態系」でしたが、当然の結果と思います。
- ④ 各認定地域はそれぞれの地域の特性に合わせて SDGs の選択をしているようです。

（2）非認定地域が認定地域に学ぶこと

大阪府は世界農業遺産に認定された地域はなく、全国的にみても認定されていない農山漁村地域のほうが圧倒的に多いのです。そのような地域が世界農業遺産認定地域に学ぶことは何か？その手法を活用することが可能かどうか？

皆さんはそれぞれ地域づくりに関わっておられることと思いますので、考えてみてはどうでしょう。GIHAS 認定の 5 つの基準で自分の地域をみてみましょう。

GIHAS 認定の 5 つの基準
1. 食料および生計の保証
2. 農業生物多様性
3. 地域の伝統的な知識システム
4. 文化、価値観及び社会組織
5. ランドスケープおよびシースケープ

この 5 つの基準を皆さんの関わっている地域に当てはめ調査していただきたいのです。例えば、食料および生計の保証について、何をつくっているか、在来品種の有無、その地の農林漁業に依存した生き物の有無、固有あるいは絶滅が危惧される動植物の有無、農林漁業を支えている伝統的技術、例えば

クワの形とか、刈った草の利用法など、注目すべき何かあるはずです。

文化、価値観および社会組織に目をむけると、固有の食文化や祭礼行事、収穫祭など、また昔からの民話や伝承などを古老に聞く、古文書を調べる、専門家の指導を仰ぐなどすることで、地域の資産として見えてくるようになります。

SDGs についてはどうか。地域づくりへの SDGs 導入ステップをレジュメ p.3 に記載しておきましたので、参考にしてください。

(3) 都市と農村の支え合いー都市農村協働

都市に住む私達の暮らしは農山村に支えられており、農山村がなければ生きていけない存在です。農山村は多くのことを教えてくれます。一方、農山村には多くの課題があり、この解決に私達は参画し、貢献することを考えたいのです。ふるさと、ご縁のあった地域などに課題解決に応援することを考えてはいかがでしょうか。“行きつけの村”を持つこと、世界農業遺産やSDGsの視点を行きつけの村に向け皆さんが元気に活動されることを願っています。

ご清聴ありがとうございました。

【Q & A】

Q1：世界農業遺産認定地域に北アメリカが入っていないのはなぜでしょうか

A 1 : 100 年以上の歴史があり、固有の農業遺産があり、認定申請すれば審査し適合すれば認定してくれますが、国や自治体が GIHAS の価値を認識せず申請しなかったら認定されることはありません。

ネイティブアメリカンの居住地には該当するものがあるかも知れませんが、申請があれば認定される可能性はあるように思います。

Q2: アジア地域に世界農業遺産が多い理由を教えてください。

A2：アジアの中で多く認定を受けているのは日本と中国、韓国ですが、国が政策として世界農業遺産の制度を利用し伝統的な農業を支援していることにあります。この制度はまだ新しいこともあり、3か国は連携して学会を開催したり、勉強会を開いたりして熱心に取り組んでいることが大きな理由です。ヨーロッパでは今年イタリア・フィレンツェの大学に世界農業遺産のマスターコースが設けられました。

今後欧州にもこの制度の普及が期待されます。

Q 3 : レジュメ p.3 世界農業遺産認定地における SDGs の取り組みを調査された表中、「5. ジェンダー平等」に対し 11 認定地はどれも取り組みなしであるが、これについてご見解をお願いします。

A 3：農業の現場では女性は活躍しているのですが、おそらく回答した事務局担当者にこの問題への関心の度合いが低く、実態調査が充分でないまま回答したのではないかと推測しています。

【田中 克先生 コメント】

本日のSDGsと世界農業遺産のお話しの根底には、大より小、量より質を、急いで結果を求めるよりその過程やプロセス、成り立ちをもっと大切にしようではないかという考えが全体を通して感じられました。個人的なことです。森の中の一人暮らしで一番に気づいたのは、食材をコンビニで買うとき、プラスチック漬けの世界にいることを実感します。身近にある山野草を食材にすることもあります。1年を通すと中々そうは行きませんので、止むをえずコンビニのお世話になるのですが、できるだけ地元でとれる野菜類などを利用したいと改めて痛感しました。

国民の2割の人間が都市に住む8割の人の生活を支えているというお話がありましたが、食料自給率38%をさらに都市部、農山村部に分けると、都市部はさらに低くなります。食の問題は環境を考える根源の問題であることを改めて感じました。

今日はSDGsの全体像など分かりやすく解説していただき、私達の理解が進みました。その中で経済、社会、環境の関係についてふれられました。これらの関係は今までは相対立するものといわれ、経済先行で来たのですが、これからの時代はこれらをいかに調和させるか、バランスをとるかということが、未来世代に対し責任を果たす上で避けては通れない問題です。SDGsや世界農業遺産ではきわめて着実に進行していることを知りました。

今年2月に環境省の中井徳太郎さん（当時総合環境政策統括官、7月に事務次官に昇任）にこの会場で講演をしていただいたのですが、環境省はSDGsを大変重要な政策として取り組んでいます。環境省事務方トップが、実は約20年前から経済、環境、社会（文明）、3つの要素が調和した社会をいかに構築するか、このことが鍵であると、中井さんが中心になって研究を重ねて環境政策に反映され、具体的な形として「環境・生命文明社会」の構想が進行しています。

世界農業遺産は農水省、地域循環共生圏は環境省と、いろんな側面でこれまで不可能であろうと思われていたことを克服しうる状況が進んでいることが分かりました。私たちも自分のこととして関わっていくことの大切さを感じたご講演でした。ありがとうございました。

（了）